

令和 3 年 6 月 9 日現在

機関番号：34504

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2017～2020

課題番号：17H02448

研究課題名(和文) 近世藩法史料の編纂過程についての実証的研究

研究課題名(英文) Empirical research on the process of compiling pre modern clan law historical materials

研究代表者

守屋 浩光 (MORIYA, Hiromitsu)

関西学院大学・法学部・教授

研究者番号：00330530

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,260,000円

研究成果の概要(和文)： 刑事裁判の判決録をはじめとする藩法史料の編纂過程について共同研究を行った。研究代表者、研究分担者がそれぞれの担当地域における史料状況を把握し、関係する史料を翻刻、分析を実施し、それらを所属研究機関の紀要等に公表した。

また共同研究の成果として論文集『幕藩法の諸相 規範・訴訟・家族』(藩法研究会編、汲古書院、2019)を公刊した。

さらに、史料集として藩法研究会編『熊本藩刑事判決録 人命篇』の編纂を完了し、研究成果公開促進費の助成を受けて2021年度中に公刊する予定である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

従来の法制史研究においては、幕府法令・幕府判例の翻刻、分析は盛んに行われてきたものの、藩レベルの判例研究は立ち遅れ気味であった。今回の共同研究においては諸藩の刑事裁判における判例集の編纂過程を明らかにし、あわせて未翻刻、未公刊の熊本藩刑事判決録を翻刻、公刊する準備を調えることができた。判例集・判決録の分析をするうえでの基本史料は、史料所蔵機関に直接出向いて原文書を閲覧しなくてはならないことがほとんどであるが、今回の当該史料の公刊によって、法制史研究者がより効率的に刑事判例分析を行うことができる一助となった。

研究成果の概要(英文)： We conducted joint research on the process of compiling clan law historical materials, including the judgment records of criminal trials. The principal investigator and the co-investigators grasped the status of historical materials in their respective areas, reprinted related historical materials, conducted analysis, and published them in the bulletins of their research institutes.

Also, as a result of joint research, a collection of papers "Aspects of the Shogunate Law: Norms, Litigation, and Family" (edited by the Clan Law Study Group, Kyuko Shoin, 2019) was published. Furthermore, we have completed the compilation of "Kumamoto Clan Criminal Judgment Record Jinmei" edited by the Clan Law Study Group as a collection of historical materials, and we plan to publish it in 2021 with the support of the research result publication promotion fund.

研究分野：基礎法学

キーワード：藩法 刑事訴訟 幕藩体制 熊本藩 判例法主義 刑法草書 幕藩法 刑罰

1. 研究開始当初の背景

平成11年度～平成14年度にかけて、研究代表者は研究代表者および研究分担者8名とともに研究協力者として「データベースの構築に向けた藩法史料の総合的研究」(科学研究費補助金(基盤研究(A)(一般)・課題番号11302001)で藩法史料の探索・校訂・デジタル化を通じてデータベースの構築に取り組んできた。さらに、平成18年度～平成21年度には、分担者16名、連携研究者6名、研究協力者3名とともに「藩法史料のデータベース展開と近世法史研究の新機軸」(基盤研究(A)(一般)・課題番号18203001)において、藩法史料のさらなる探索および公開に向けての準備作業を行ってきた。さらに、平成25～28年度には、分担者12名、研究協力者10名とともに「データベースを通じた判例集と行政記録との相互補完による近世法史研究の新展開」(基盤研究(B)(一般)・課題番号25285006)を受け、成果を得た。本研究はその成果を踏まえ、共同研究の過程で明らかになった実証的課題を解明することにより、一層の研究の展開を図るものである。

平成25～28年度科学研究費助成事業「データベースを通じた判例集と行政記録との相互補完による近世法史研究の新展開」において、諸藩における裁判史料と行政記録の発掘作業を行った。また長州藩および熊本藩の判決記録を中心とした史料翻刻作業を行い、成果を得ることができた。これらの成果については、準備が整い次第、史料集としての刊行あるいはインターネットでの公開により、広く社会に還元する予定である。

その過程において、今まで必ずしも意識されていなかった課題が明らかになってきた。平成11年度～平成14年度科学研究費助成事業「データベースの構築に向けた藩法史料の総合的研究」の成果として執筆した「盛岡藩の諸判例集」(『近世刑事史料集1 盛岡藩』に収録)で研究代表者は、裁判に携わる役人が実務の用に供するために作成したと思われる手控えサイズの判例集について言及したが、それ以外に藩の公式判例集が編纂される過程で、編纂者が様々な裁判記録を収集し、編纂資料として残している場合があることが、現地調査で分かってきた。たとえば、庄内藩では、公式判例集として「政府秘録」があり、鶴岡市史資料編に採録されている。この判例集の編纂者は、「秋官志」という私的な判例集を作成しており、鶴岡市立図書館に収蔵されているが、調査の結果「政府秘録」よりはるかに大部であり、内容的にも詳細であることが分かった。これは裁判実務のように供されるとともに、藩公式の判例集の編纂の基礎資料として用いられたと想像される。このような史料は、諸藩にまだ研究対象とされないまま存在していると思われる。

上記研究の素材となる史料であるが、とりわけ藩の法制史料は、明治維新や第二次大戦などにより滅失、散逸したのも多く、またそもそも残存しているのかどうか明らかでないことが多い。利用されず収蔵庫の片隅に眠っている史料が湿気や虫害によって破損し、利用できなくなっているものも依然として多い。これまでの科学研究費助成事業「データベースの構築に向けた藩法史料の総合的研究」、「藩法史料のデータベース展開と近世法史研究の新機軸」、「データベースを通じた判例集と行政記録との相互補完による近世法史研究の新展開」においては、秋田、庄内、福岡、和歌山、姫路、鳥取、津山、久留米、萩、宇和島等の諸藩の裁判記録を調査し、デジタルカメラによる撮影、整理を行い、データベース化の準備を行った。また、収集した史料のうち、盛岡藩および対馬藩の刑事裁判史料については、翻刻作業を進め、『近世刑事史料集1』『同2』として刊行することができた。これについて特筆すべきことは、史料全体を紙媒体で刊行した場合相当の冊数に渡る内容をCDやDVDに収録することにより1冊の史料集にまとめ、なおかつコンピューター上の検索に便利なものとしたことである。また、長州藩および熊本藩の裁判記録についても翻刻作業が進んでおり、ある程度まとまった段階で『近世刑事史料集』シリーズの続巻として刊行することを目指し、今まで収集することのできた史料を用いた論文集の刊行も計画している。

これらの作業を通じ、滅失する危険のある貴重な法制史料をデジタル画像という形で保存し、また研究目的で世界中のあらゆる所から利用できるようにすべく、準備作業を行った。しかしこれまでの活動によってもなお、未だデジタル画像の取得に着手できていない史料が大半を占めている。よって、本研究課題においては、先行研究による調査によっても発見、取得できなかった史料のデジタル撮影を続行し、貴重な文化遺産を後代に伝えることを一つの目的とする。

2. 研究の目的

平成11～14年度科学研究費助成事業基盤研究(A)「データベースの構築に向けた藩法史料の総合的研究」、平成18～21年度科学研究費助成事業基盤研究(A)「藩法史料のデータベース展開と近世法史研究の新機軸」、平成25～28年度科学研究費助成事業基盤研究(B)「データベースを通じた判例集と行政記録との相互補完による近世法史研究の新展開」の成果を受け、藩法史料の発掘・デジタル画像データ取得及び史料集刊行・インターネット公開を進める。

今回は各藩の判例集の編纂者が作成した諸史料を発掘、分析することにより、判例集編纂過程でどのような情報が残され、どのような情報が捨てられてきたかを明らかにすることにより、近世期全般の刑事裁判の有り様を解明する。

3. 研究の方法

4年間の研究期間で実行する作業を、

撮影・調査

翻刻

判例集と編纂素材となる史料の照合・比較

史料集刊行

の4つのステップに分け、1年ごとに2つ程度のステップを踏みながら作業を前進させていった。前半2年間は、主として研究対象となる史料の調査、収集および翻刻を、後半2年間で、収集史料の照合比較とデータベース化および史料集刊行に向けた作業を主として行う。

さらに、研究代表者、研究分担者、研究協力者各人の分担する地域・領域についての研究成果を公にするため、論文集を公刊する。

【平成29年度研究計画・方法】・・・撮影・調査+翻刻のステップ

4年計画のうち、平成29年度は、先行研究の調査では十分な調査が行えなかった史料調査を重点的に行う。所在状況については、先行研究の調査で公式の藩記録については、おおよその状況が把握できているが、本研究課題の一つの柱である私的裁判記録については必ずしも十分調査ができていないので、藩の公式記録以外の調査を主たる作業とする。また、私的な記録は各史料所蔵機関で逐次的に収集されているものも多く、冊子またはインターネット上のデータとして検索可能なものにとどまらず、現地での確認が必要なものも含めて、全国の史料所蔵機関に赴き、所在状況を確認する。調査状況の報告・発見した史料の価値判断等のために、特に問題となる史料の所在地で合宿研究会を開催する。

また、先行研究の調査により多量の史料画像が集積でき、研究協力者の助力を得て、30万字以上の史料を翻刻したが、史料の量が膨大であるため、本研究課題でも引き続き、長州藩『温故便覧』や熊本藩裁判記録など、これまで取得したもののなかでまとまったもの、また現在翻刻作業中の藩法史料の解読・入力作業を並行して進める。

【平成30年度研究計画・方法】・・・撮影・調査+翻刻のステップのつづき

前年度の補充調査を行うとともに、所在調査の結果明らかになった各藩の裁判に関する私的記録のうち重要なものについて撮影を行い、画像処理を進める一方、採集史料の解読入力作業を続行する。

また、調査した史料所在リストを整理してコンピューター入力する一方、デジタルカメラで撮影した史料を画像データとして保存し、データの整理作業後は、当面は研究メンバー間で共同利用するホームページ上にアップロードできるよう手配を行い、著作権の問題などをクリアして全研究者に公開する基盤を構築する準備を進める。

【令和元年度研究計画・方法】・・・公式裁判史料と私的裁判記録の照合・比較のステップ

前年度作業の継続が基本となるが、それまでの史料調査により取得することのできた各藩の刑事裁判史料を材料に、私的記録に記載された刑事事件・裁判記録との照合作業を通じて、公式判例集の編纂に携わった役人たちが編纂に当たってどのような情報を収集し、それをどのようにまとめ、どのような情報を不要なものとして整理していったのか、また各藩の動きについての比較藩法研究にも取り組む。

【令和2年度研究計画・方法】・・・裁判史料と私的裁判記録の照合・比較+史料集刊行のステップ

前年度の作業を引き継ぎ、刑事法分野を中心に、公式判例集の編纂をめぐる各藩の動きについての比較藩法研究に取り組む。

また、これまでの作業の総括を進めつつ、残された課題があれば、その点に重点を置いて、本研究の課題たるデータベース利用により総合的比較藩法研究の論文集の刊行に取り組む。さらに、4年間の研究成果を学界に問う一方、『近世刑事史料集』続刊の出版を行う。これらについては、別に刊行助成を申請する。

4. 研究成果

(1) 諸藩の法制史料の発掘、翻刻、分析

研究代表者、研究分担者、および研究協力者共同での史料調査としては、平成29年11月関西学院大学で共同研究方針を決定し、熊本藩の刑事裁判史料を題材とすることにした。平成30年8月熊本大学にて共同史料調査合宿および研究会を実施し、同大学永青文庫に所蔵する熊本藩刑事裁判史料を閲覧、撮影し、研究分担者山中至らによる研究報告を行った。

また、研究代表者、研究分担者、および研究協力者個人が各自の分担する研究領域、地域に関し研究論文、史料翻刻・紹介を所属研究機関の紀要等に発表した。主たるものとしては、研究代表者守屋浩光による対馬藩の刑事裁判研究、研究分担者高塩博、山中至、安高啓明による熊本藩の刑事裁判研究、同牧田勲による入会研究、同神崎直美に日向延岡藩研究、研究協力者門脇朋裕による小田原藩の法制研究がある。なお、研究分担者高塩博、神保文夫、小倉宗、代田清嗣、研究協力者林由紀子による幕府法制研究は、幕藩法制という観点から関連研究として位置づけられる。

(2) 熊本藩刑事判決録の翻刻、公刊

今回の共同研究の大きな成果としては、熊本藩の刑事裁判史料の翻刻・刊行である。平成25

～28年度科学研究費助成事業基盤研究(B)「データベースを通じた判例集と行政記録との相互補完による近世法史研究の新展開」(課題番号25285006)以来、研究協力者鎌田浩らによって熊本藩の刑事裁判記録が継続的に翻刻されてきたが、翻刻成果がまとまってきたことから、共同研究の題材として取り上げ、校訂・編集のうえ史料集として公刊することとした。研究分担者高塩博を編集代表者とし、同山中至、安高啓明らの校訂・編集を経て、『熊本藩刑事判決録 人命』として令和3年度中に刊行する予定である。なお、この史料集の刊行に際しては研究成果公開促進費による助成を受けることになっている。なお、熊本藩刑事判決録は分量が膨大であり、今回の刊行分を含めて全10巻の公刊を予定している。

(3)論文集の公刊

今回の共同研究の成果の一部として、研究代表者守屋浩光、研究分担者高塩博、高木侃、山中至、神保文夫、安竹貴彦、研究協力者林由紀子の共著による論文集『幕藩法の諸相 規範・訴訟・家族』(藩法研究会編 代表高塩博、汲古書院、令和元年11月)を刊行した。本書では幕藩法という観点から藩法と幕府法を視程に入れた論文を収めている。

(4)今回の共同研究から得られた課題

今回の共同研究が発足する時点で、諸藩の法制度、裁判制度が孤立したものとして存在するものではなく、諸藩相互に影響を与えていることが意識されていたのであるが、幕府公事方御定書とは形態が大きく異なる明律型刑事法典「御刑法草書」を持っていた熊本藩においても幕府法との関係を考慮してその内容を分析する必要性が分かってきた。また、研究分担者高塩博らの研究から、幕府法から諸藩法への一方的な影響ではなく、反対に先進的な藩法が幕府法に影響を与える可能性があることも分かってきた。今回の共同研究を踏まえた次の研究課題としては、藩法と幕府法の相互的な影響関係の解明を意識したものとなる。う。

今回得ることができた研究成果および明らかになった研究課題は、令和3年度～令和6年度科学研究費基盤研究(B)「藩法と江戸幕府法のインタラクティブな影響についての史料実証的研究」(課題番号21H00569)において、引き続き取り組んでいくことにしている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計27件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 守屋浩光	4. 巻 71-1
2. 論文標題 対馬藩の加重死刑について 「罰責」掲載の判決の紹介を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 法と政治	6. 最初と最後の頁 616-517
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 神崎直美	4. 巻 38
2. 論文標題 日向延岡藩内藤充真院の大樹寺参拝	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 城西大学経済経営紀要	6. 最初と最後の頁 93-122
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安高啓明	4. 巻 100
2. 論文標題 刑法草書の運用と罪状認定過程 - 盗賊・倉庫堅完を事例に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 熊本史学	6. 最初と最後の頁 75-92
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安高啓明・長屋佳歩	4. 巻 23
2. 論文標題 熊本藩における入墨者の社会復帰制度	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 法史学研究会会報	6. 最初と最後の頁 102-114
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安高啓明・川端 駆	4. 巻 3
2. 論文標題 史料紹介『御穿鑿所引取書達書控（抄録）』（2）	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 永青文庫研究	6. 最初と最後の頁 41-46
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安高啓明・長屋佳歩	4. 巻 8
2. 論文標題 史料紹介『除墨帳』（1）	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 西南学院大学博物館研究紀要	6. 最初と最後の頁 1-56
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安竹貴彦	4. 巻 65 - 1,2
2. 論文標題 「諸吟味書」 - 明治二年大阪府の刑事判決録 - （22番帳・未完）	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 法学雑誌（大阪市立大学）	6. 最初と最後の頁 123-209
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安竹貴彦	4. 巻 65-3,4
2. 論文標題 「諸吟味書」 - 明治二年大阪府の刑事判決録 - （23番帳の1・未完）	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 法学雑誌（大阪市立大学）	6. 最初と最後の頁 103-136
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高塩博	4. 巻 100
2. 論文標題 熊本藩「御刑法草書附例」の伝本について - 最高裁判所図書館所蔵本の紹介 -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 熊本史学	6. 最初と最後の頁 57-73
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高塩博	4. 巻 57-4
2. 論文標題 「公事方御定書」を改編した幕府法律書 - 「寛保律」百箇条について - 論考篇	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 國學院法學	6. 最初と最後の頁 1-50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高塩博	4. 巻 23
2. 論文標題 幕府法律書の伝本三種 - 「公事訴訟取捌」に「公事方御定書」下巻などを組み合わせた伝本 -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 法史学研究会会報	6. 最初と最後の頁 93-101
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小倉宗	4. 巻 128 - 5
2. 論文標題 「後期政治史」(「2018年の歴史学界 - 回顧と展望 - 」日本・近世・四)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 史学雑誌	6. 最初と最後の頁 115-118
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 守屋浩光	4. 巻 70 - 1
2. 論文標題 対馬藩の「徒党」処罰について：「罰責」掲載の判決の紹介を中心に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 法と政治	6. 最初と最後の頁 91-115
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 神崎直美	4. 巻 41
2. 論文標題 「領主さまさまランキングー大和市域の近世の領主たちー」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『大和市史研究』	6. 最初と最後の頁 19 - 35
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 牧田勲	4. 巻 39
2. 論文標題 「公有地入会の歴史に学ぶ」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『入会林野研究』	6. 最初と最後の頁 13 - 18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 神保文夫	4. 巻 22
2. 論文標題 「法を笑うー近世法律文書の戯文ー」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『法史学研究会会報』	6. 最初と最後の頁 186 - 200
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 代田清嗣	4. 巻 68 - 2
2. 論文標題 「徳川幕府刑法における贈収賄罪」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『名城法学』	6. 最初と最後の頁 96 - 44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小倉宗	4. 巻 675
2. 論文標題 「書評 佐藤雄介著『近世の朝廷財政と江戸幕府』」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『日本史研究』	6. 最初と最後の頁 69 - 75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安高啓明・川端駆	4. 巻 2
2. 論文標題 「史料紹介 御穿鑿所引取書達書控(1)」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『永青文庫研究』	6. 最初と最後の頁 105 - 128
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安竹貴彦	4. 巻 64-3
2. 論文標題 「「諸吟味書」(20番帳)－明治2年大阪府の刑事判決録－」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『法学雑誌(大阪市立大学)』	6. 最初と最後の頁 121-212
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安竹貴彦	4. 巻 64-4
2. 論文標題 「諸吟味帳」(21番帳)－明治2年大阪府の刑事判決録－	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『法学雑誌(大阪市立大学)』	6. 最初と最後の頁 143-200
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 守屋浩光	4. 巻 67-2
2. 論文標題 対馬藩における密貿易に対する処罰について－『罰責』掲載の判決の紹介を中心に－	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 名城法学	6. 最初と最後の頁 1-28
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山中至	4. 巻 13
2. 論文標題 台湾覆審・高等法院判例にみる条理について	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 早稲田大学総合研究機構『プロジェクト研究』	6. 最初と最後の頁 23-38
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 神保文夫	4. 巻 20
2. 論文標題 評定所の公事訴訟数に関する若干の史料 江戸幕府司法統計の断片	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 法史学研究会会報	6. 最初と最後の頁 153-163
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 神崎直美	4. 巻 33
2. 論文標題 日向国延岡藩主内藤政順・充姫夫妻の婚礼	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 城西人文研究	6. 最初と最後の頁 1-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小倉宗	4. 巻 67-2
2. 論文標題 「御黒印長持有之候御書付写」 江戸時代前半期の大坂における幕府の軍事機構に関する史料の紹介と分析	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 名城法学	6. 最初と最後の頁 204 - 240
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安高啓明・島由季	4. 巻 664
2. 論文標題 幕藩体制下のキリシタン政策 熊本藩を中心に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 西南学院大学博物館研究紀要	6. 最初と最後の頁 1 - 29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 門脇朋裕
2. 発表標題 近世前期の幕府右筆と法令
3. 学会等名 法史学研究会第191回例会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計12件

1. 著者名 藩法研究会（高塩博・神保文夫・林由紀子・安竹貴彦・守屋浩光・安高啓明・山中至・高木侃）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 汲古書院	5. 総ページ数 312
3. 書名 幕藩法の諸相 規範・訴訟・家族	

1. 著者名 代田清嗣	4. 発行年 2020年
2. 出版社 名古屋大学出版会	5. 総ページ数 386
3. 書名 徳川日本の刑法と秩序	

1. 著者名 杉森哲也・三枝暁子・三宅正浩・小倉宗・村和明・岸泰子・牧知宏・西坂靖・渡辺祥子・岩本葉子・吉田ゆり子・西山剛・芹口真結子・高木博志・海原亮	4. 発行年 2019年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 358
3. 書名 シリーズ三都 京都巻（小倉は第3章 幕府役人と享保期の改革51-73頁を分担）	

1. 著者名 高塩博	4. 発行年 2019年
2. 出版社 汲古書院	5. 総ページ数 480
3. 書名 『江戸幕府の「敵」と人足寄場－社会復帰を目指す刑事政策－』	

1. 著者名 安高啓明	4. 発行年 2018年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 268
3. 書名 『踏絵を踏んだキリシタン』	

1. 著者名 清水紘一・柳田光弘・氏家毅・安高啓明	4. 発行年 2019年
2. 出版社 岩田書院	5. 総ページ数 618
3. 書名 近世長崎法制史料集 2	

1. 著者名 高木侃	4. 発行年 2017年
2. 出版社 日本経済評論社	5. 総ページ数 232
3. 書名 写真で読む三くだり半	

1. 著者名 高塩博	4. 発行年 2017年
2. 出版社 汲古書院	5. 総ページ数 1100
3. 書名 江戸幕府法の基礎的研究 論考篇・史料篇	

1. 著者名 出口雄一ほか編（安高啓明第8章執筆担当）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 弘文堂	5. 総ページ数 528（安高担当は258-296）
3. 書名 概説日本法制史	

1. 著者名 五野井隆史監修（安高啓明「寺沢広高」執筆担当）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 宮帯出版社	5. 総ページ数 556（安高担当は349-360）
3. 書名 キリシタン大名	

1. 著者名 野藤妙・内島美奈子編（安高啓明「熊本藩軍功意識と創造された天草四郎像」執筆担当）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 花乱社	5. 総ページ数 79（安高担当は64-69）
3. 書名 島原半島の信仰と歴史	

1. 著者名 横山輝樹	4. 発行年 2017年
2. 出版社 思文閣出版	5. 総ページ数 264
3. 書名 徳川吉宗の武芸奨励 近世中期の旗本強化策	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	神保 文夫 (JINBO Fumio) (20162828)	名古屋大学・法学研究科・名誉教授 (13901)	
研究分担者	安竹 貴彦 (YASUTAKE Takahiko) (20244626)	大阪市立大学・大学院法学研究科・教授 (24402)	
研究分担者	神崎 直美 (KANZAKI Naomi) (30348172)	城西大学・経済学部・教授 (32403)	
研究分担者	安高 啓明 (YASUTAKA Hiroaki) (30548889)	熊本大学・大学院人文社会科学研究部(文)・准教授 (17401)	
研究分担者	高塩 博 (TAKASHIO Hiroshi) (40236211)	國學院大学・法学部・名誉教授 (32614)	
研究分担者	小倉 宗 (OGURA Takashi) (40602107)	関西大学・文学部・教授 (34416)	
研究分担者	坂本 忠久 (SAKAMOTO Tadahisa) (60241931)	東北大学・法学研究科・教授 (11301)	
研究分担者	丸本 由美子 (MARUMOTO Yumiko) (60735439)	金沢大学・法学系・准教授 (13301)	

6. 研究組織 (つづき)

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	代田 清嗣 (SHIROTA Seishi) (70804227)	名城大学・法学部・准教授 (33919)	
研究分担者	山中 至 (YAMANAKA Itaru) (90167718)	熊本大学・大学院法曹養成研究科・名誉教授 (17401)	
研究分担者	牧田 勲 (MAKITA Isao) (90209403)	摂南大学・法学部・教授 (34428)	
研究分担者	高木 侃 (TAKAGI Tadashi) (40099198)	専修大学・その他部局等・非常勤嘱託 (32634)	削除：2019年2月26日

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	鎌田 浩 (KAMATA Hiroshi)	専修大学・名誉教授 (32634)	他に熊本大学名誉教授
研究協力者	小林 宏 (KOBAYASHI Hiroshi)	國學院大学・名誉教授 (32614)	
研究協力者	林 由紀子 (HAYASHI Yukiko)	名古屋学芸大学・短期大学部・名誉教授 (33939)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	林 紀昭 (HAYASHI Noriaki)	関西学院大学・名誉教授 (34504)	
研究協力者	橋本 久 (HASHIMOTO Hisashi)	大阪経済法科大学・名誉教授 (34427)	
研究協力者	谷口 昭 (TANIGUCHI Akira)	名城大学・名誉教授 (33919)	
研究協力者	山田 勉 (YAMADA Tsutomu)	神戸女子大学・文学部・教授 (34511)	
研究協力者	古城 正佳 (FURUJO Masayoshi)	東海大学・非常勤講師 (32644)	
研究協力者	上山 卓也 (UEYAMA Takuya)	京都大学・文学部図書室・閲覧掛 (14301)	
研究協力者	門脇 朋裕 (KADOWAKI Tomohiro)		元帝京大学非常勤講師
研究協力者	横山 輝樹 (YOKOYAMA Teruki)	関西大学・非常勤講師 (34417)	他に大阪学院大学非常勤講師・伊賀市古文書解読調査員

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	片保 涼介 (KATAHO Ryosuke)		立命館大学大学院法学研究科博士後期課程大学院生

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関